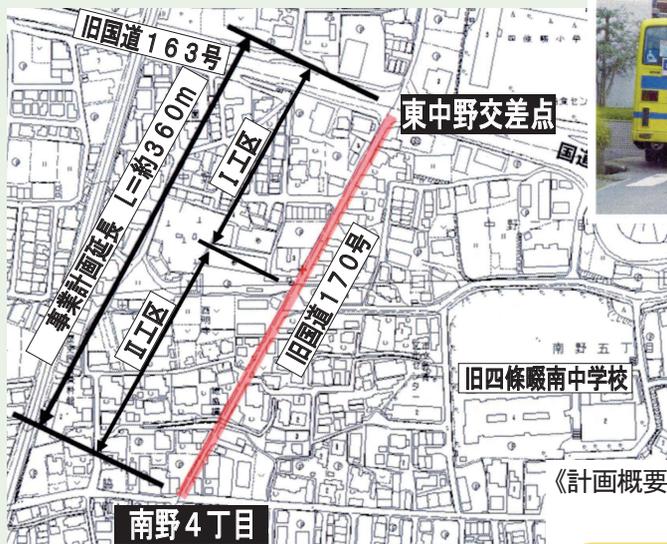


長畑ひろのり News vol.145



(C) 2013 Kohama Studio

(旧)国道170号整備事業



《計画概要》

(離合待ち状況)



(現況)



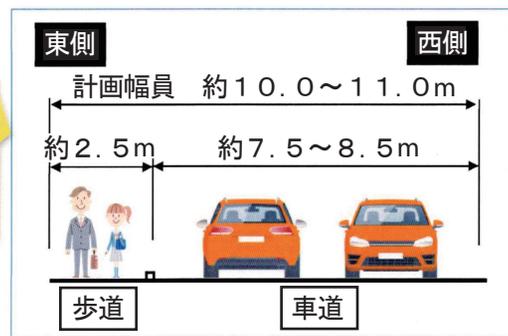
令和3年度以降となりますが、事業採択後は地権者説明会等を行うとともに、国からの補助金が認められて事業が本格的にスタートとなります。



昨年の11月28日、本市の都市整備部部長より、大阪府枚方土木事務所からの情報提供がありました。その内容は(旧)一般国道170号歩道整備事業の事業化についてです。

現時点で決まっているのは「令和2年度に道路の路線測量及び予備設計を行い、道路の線形や高さなどを決定します」とのことです。

今回の歩道整備は、国道163号より北側及び北条交番付近との連続性を考慮し、東側整備を検討しています。



大学で講義「北河内を知る」

昨年の11月16日土曜日、摂南大学 寝屋川キャンパスにおいて毎年1コマだけですが、今年で5年目となる講義をしてきました。受講する学生は毎年100名を超えていたのですが、今年は少なく1、2回生の約80名でした。

内容は、ソーシャル・イノベーション副専攻課程で、科目は「北河内を知る」です。その中の四條畷市についてを担当するのですが、今年は例年と違い私から一方通行で教えることはありません。まず「四條畷市総合戦略」を既に学生は勉強してきており、その内容を中心に私に対しての50分間に及ぶ質疑応答(左下画像)から始まりました。その内容を踏まえ、学生がグループ単位で本市の課題を見つけ解決策を発表(右下画像)し、終了となります。

3時間以上にわたる授業でしたが、学生からの本市に対する提案や解決策に気付かされることも多く、私にとっても貴重な経験をさせて頂きました。後は、少しでも本市の魅力が学生に伝わっていることを願うばかりです。



毎月発行している「長畑ひろのりNews」を、約半年ごとに送っています。送付の必要な方は、送付先をFAXもしくはe-mailにてお知らせ下さい。

長畑ひろのり事務所 FAX 072-877-1280
e-mail sky@nagahata.jp



中曽根康弘元首相が、昨年の11月29日に101歳で亡くなりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

その元首相が四條畷町の時代に関わった内容を、2009年11月に発行した「長畑ひろのり News vol.029」に取り上げていますので、改めて紹介します。ただ、少しでも読みやすくなる様にと以前の内容に手を加えています。

「四條畷町原子炉問題」について①

このまちの事を知って頂きたく、四條畷町が田原村と昭和36年に合併する直前に起こった原子炉建設問題を記します。調べますと、私が以前より聞いていた“四條畷に原子力発電所誘致の話があった”とは少し違っていました。

その答えは、昭和47年10月1日に発行された四條畷市史第一巻754ページにあり「関西原子炉問題」と題し、次のように書かれています（原文を途中までそのまま引用）。



関西原子炉問題とは、当初京都府内の宇治市に予定されていた研究用原子炉建設が住民の反対に合って挫折、為に当市域が候補地として設定された事に端を発し、設置可否を廻って意見が両分し、町長リコールへと発展したものである。即ち、京都大学を中心とする関西在住学者の「実験用原子力研究機関」としての原子炉設立により、地域開発を進めんとする町長を中心とする誘致派と、これが設置は地域住民の安全を保証し難いとする反対、慎重派が対立、遂に町長リコール問題に発展し、署名者数が法定数に達するに及び、住民投票が行われて町長リコールを成立させ、町長選挙の結果は新町長三牧信知の就任となったのである。此れが投げかけた問題は、科学の発展と公害、地区住民の利益と国家利益等、複雑にからみあい、時として相剋し合う難問であり、又原子炉の安全性についても、未だに新聞等に或種の疑問が散見される現状からみて、こゝでは速断は避けたい。即ち、この問題は長期的展望に立って論じられるべきものとして、その可否は後世史家の批判に俟ちたく、此処では事実の経過記述に止めたい。：。

また、選挙の記録によりますと

昭和34年4月30日、任期満了による町長選挙が行われ、当日有権者数5,565人のうち投票者数は4,754人。投票率は85,43%（無効投票106票）であった。

当選 辻 丑松 2,944票
田中 猪三郎 1,704票

昭和35年10月15日、リコール成立による町長選挙が行われ、当日有権者数5,858人のうち投票者数4,961人。投票率は84,69%（無効投票50）であった。

当選 三牧 信知 2,471票
辻 丑松 2,426票
釜田 重寿 13票
馬場 宏保 1票

リコールの署名者数、その後のリコールの是非を問う住民投票の結果はわかりませんでした。しかし、聞くとところによると、町長リコールの票差は、昭和35年の町長選挙結果の三牧氏と辻氏の票差の45票と同数だったそうです。この僅かな票差から考えましても、町民が是非を判断するには難しい問題だったことがわかります。しかし、一年半の間に2度の町長選挙、異常な事態であったのは間違いありません。

このリコール問題に、中曽根康弘元首相が深くかかわっていました。当時、中曽根元首相は一衆議院議員でありながら、昭和29年3月2日、日本初の「原子力予算」を国会に上程し可決させています。

そして昭和34年、第二次岸内閣において科学技術庁長官として入閣、その年に原発推進としての実力がかわれ、原子力委員会の委員長にも就任しています。

大阪府は、中曽根科学技術庁長官を招き四條畷中学校（現在の四條畷南小学校）体育館において町民対象に研究用原子炉建設の講演を行います。その時、辻町長との間で研究用原子炉建設の話がまとまっていなかったにもかかわらず、講演会のムードが良かった事に気を良くした中曽根長官は東京に戻り「大阪の四條畷という町が原子炉建設を受けてくれる」と話され、それを知った町民が町長リコールを起こし、町長選挙にまで発展したのです。

（来月号へ続く）

祝！2020年

私が過去に撮影した雪の四條畷神社



大阪万国博覧会が開催されている中四條畷町は、1970年7月1日人口35,833人で市になりました



そこで四條畷市は、今年2020年市制施行50周年を迎えます



今年も皆様にとって良い年であります様に

